

プロフィール  
小山雄一郎先生

・研究分野  
交通社会学と都市社会学。現在は道路網整備をめぐる住民と行政のコミュニケーションについて研究中。

・担当科目  
社会学(コア科目)、統計学、社会調査法、社会学研究

・自分のゼミ生について  
とにかくみんな個性豊か！一人一人が独特の視点や考え方をもっていて面白い。ゼミのディスカッションでは、全員が自分の個性を存分に活かして容赦なくツッコむ。でも、相手の粗探しをして叩くわけではなく、問題解決を目指した生産的なツッコみばかり。

# 突撃レポート 都市コミュニティメジャー 小山雄一郎先生

リベラルアーツの面白さをドーンと紹介!!



リベの本音を伝えるコーナー!!

リベラルアーツ  
学びの領域

## 今回のテーマ 都市コミュニティ

- 日本学
- 芸術と文化
- 子どもと心理
- ライフデザイン
- 生命と環境
- 英語コミュニケーション

リベラルアーツ学部には、上に書かれている7つのメジャーがあります。(メジャーについての詳細は学部のパンフレットをご覧ください。)今回は、その中の「都市コミュニティ」をピックアップして紹介します。「都市コミュニティ」は、何をしているのか・・・、そんな疑問にお答えします。リベラルだけの面白さを感じてください。他のメジャーについては今後、順にお伝えします。お楽しみに♪

## 6月10日 私のノート

このメモは、小山先生のゼミで6/10に行った聞き取り調査の際にとったメモの一部です。実際に行政と住民がインターチェンジの工事で立ち退き問題でもめている現場に行き、住民の方にお話を伺いました。

**Xメモ1**  
行政はすごく満足そうに話している  
自分たちの思い通りに話が進んでいるから

**Xメモ2**  
住民の方が発言するたびにため息をげている

**Xメモ3**  
意見  
高架化は前提条件  
商店街はバスタクシーと許可を取った商用車のみ通行可とする  
立ち退きは最小限  
電柱を撤去して地下に埋設→道路を広く

「メモの解説」  
これまで1年間、小山先生のゼミでは東京外環状道路について調べています。調べるうちに、直接街作りに携わっている方に話を聞きたいと思い聞き取り調査を行いました。左のメモはその際の会話の一部を抜き出したものです。行政と住民の話合いがいかに大変か、わかるでしょうか？調査の方法についてなど、詳しくは右側の「天国地獄の授業中」というコーナーを見てください! (\*)

「聞き取り調査をしてみても」  
みなさんは、インタビューをされたことはありますか？とても緊張しますよね。しかし、する側の人はどうでしょう・・・。私はされるよりも、とっても緊張しました！実際に行政ともめている最中だし、単語一つにまで気を遣いました。また、時間が延びることが多く1時間の予定が4時間かかったこともあり。その時は、お家に呼んでいただきご飯と一緒に食べて楽しかったですけども、聞き取り調査をするには事前の知識が必要なんだと反省しました。アポをとる時から断られそうになったこともありましたから。しかし自分の考えた内容がきちんと伝わり、無事調査が終わった時は、本当にホッとしました♪

## 小山先生に聞く社会学!!

インタビューで小山先生の頭の中大解剖!!



小山雄一郎先生

「社会学とは？」  
思い起こしてみてください。  
混雑したエレベーター。ドアが閉まって、しんとする。階段を移動する間、あなたは何処を見ているのか？  
なんとなく上の方・・・。  
点灯するフロアの数字・・・。  
だいたいみんな同じところを見ているでしょう。  
これって実は、そこに意識を仕向けられているのです。  
というか、他に見るべきところがない。  
もつという、エレベーターの中では絶対に「見てはいけないもの」がある・・・。  
それはなにかという、知らない人の顔。



「現在、社会学の中で何を対象に扱っている？」

小山先生：社会学といってもいろいろな領域がありますが、私は現在、特に交通社会学を研究しています。  
「交通社会学を研究しよう」ときっかけは？  
小山先生：趣味からです。完全に。



## 天国地獄の授業中!!

小山先生のゼミ学生の生の声をご紹介します!!



▲ゼミ合宿の様子

小山ゼミってどんなクラス？  
ゼミ長五嶋の心の声・・・  
キツいけど身になると思う。  
中学高校の授業とは違って、受け身じゃやれない勉強をしていて、身になっていることが実感できるよね。  
これまでナアナアで過ごしてきたけど、このゼミでは全く通用して・・・行政と住民がもめている現場へ行って、住民に聞き取りをしたりするんだけど、現場に調査をしに行くときには勉強して準備しておかないと、話がかみ合わなくて失礼になるから。ゼミの論文は中立的な立場で書かないといけないし、その論文はゼミ全体でひとつの報告書にまとめ、調査に関わった人たちに郵送するんだけど、それがいい意味でプレッシャーになっている。



▲ゼミ長、五嶋

それで、大変だったのは調査するとき客観的にみれないことかな。たとえば、地下に道路を建設する地域にきれいな池があって、地下を掘ることで水が枯れちゃうんじゃないかと心配している住民の方がいることが分かったんだ。それで調査をしていて深刻な話を聞いてるうちに感情移入してしまっ、どうにかしてその池を守りたいと思うようになったんだけど、自分では何もできなくて。  
最初は当事者じゃないから冷めた見方をしていたけど、そのうち、そんな深刻な問題を抱えている現場に、よそ者の学生が居てもいいのだからって考えるようになってたね。  
当事者じゃないからこそ聞けることもあるっていうことにしばらくして気づいたけどね。



▲合宿先にて、小山ゼミ集合写真

「つらいだけに見えるけれど遣り甲斐があつて、ゼミの人たちと出会えたことも含めて楽しいよ。」  
泊まりがけの報告会では自分が直接関わっていないところにもアドバイスしたりして、その後は寝ないでわいわいやってたりもしたな。  
それなら先生が「そんなに起きて、次の日クタクタだったら本気で怒るからな。」とか言ってくれて、怖えええと思つて布団に入ったら先生が怖い話始めてあれ？みたいなの。  
※1  
ゼミ：少人数の研究グループ  
ゼミ長ゼミの学生をまとめるリーダー  
※2  
国交省、地方自治体、聞き取り調査をさせてもらった住民の方たちなど



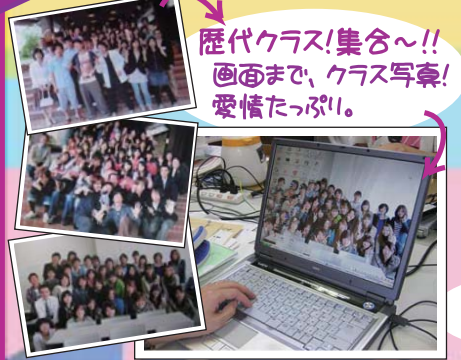
大学3年の頃にさかのぼりますが、3年の途中までの大学生活は塾講師のアルバイトに明け暮れていました。教えた生徒たちが出来るようになるのが楽しくて・・・。  
車が好きだからバイト代の多くはガソリン代に消えてました。アルバイト先の先輩も車好きで、よく夜中一緒にドライブしていましたね。  
こればかり話すと走り屋みたいですが・・・。  
で、運転しているうちに考えるようになったんですよ。  
制限速度を守ろう！みたいなことがずつと言われているけど、実際には守っていない車もいて交通はスムーズに流れている。ただひとたび事故が起こるとまず



▲小山先生の研究室

「ありがとございませした☆」  
そんなきっかけで、交通事故をめぐる社会の「仕組み」について調べ始めました。  
事故の当事者に話を聞くのはなかなか難しいし、かといって警察も捜査の情報を教えてくれることはあまりないので、いろいろと苦労しましたけど。  
スピード違反が原因みたいにいわれる。これは何かおかしくないか？って。テーマエドホンネを隠して処理されちゃう、という違和感かな。

## 研究室におじゃまします!!



歴代クラス!集合~!!  
画面まで、クラス写真!愛情たっぷり。



過去の文化祭で使用された模擬店の看板がお出迎え!  
学生からもらったお土産「学生がおいてっちゃうんだよね~」とか言って、嬉しいけれど(笑)